



# みやぎアピール大行動2022 実行委員会

# News

発行/みやぎアピール大行動実行委員会事務局  
メール: appeal318@hotmail.co.jp

2022.10.21. FRI No.25



## #いのちを分けない社会へ

優生保護法問題の全面解決をめざす

**10.25** 全国集会 ~命に優劣はない! 優生思想を断ち切り、  
差別のない未来へ!~

**2022年10月25日(火)**

**12時30分~15時** 手話通訳  
要約筆記あり

入場無料・申し込み不要

**日比谷公園大音楽堂(日比谷野音)**

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園 1-5



<https://youtu.be/Lc-vHmpqgH0>

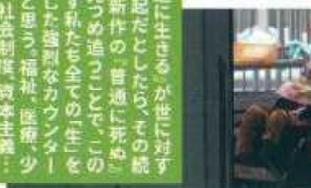
### 「……不良な子孫の出生を防止する……」優生保護法第1条(目的)

この法律により、国から強制的に不妊手術や中絶手術をされた人たちがいます。国は今もって、謝罪も補償もしていません。国が障害のある人は「不良」と決めつけたことで、障害者差別は、根強く残っています。優生保護法問題は決して過去のことではありません。被害者の声に耳を傾けてください。国の犯した過ちを、二度と繰り返させては行けないと裁判に臨まれた思いを知ってください。この春、大阪高等裁判所と東京高等裁判所で、原告の訴えを認めた判決ができました。私たちは、この追い風を力に、優生保護法問題の全面解決に向け、また一人一人が大事にされる未来にむけて集会を開きます。ぜひ、ご参加ください。



前作「普通に生きる」が世に對する問題提起だったなら、その続編であり新作の「普通に死ぬ」は、死を見つめ追いつめて、「世に暮らす私たちが全ての「生」を照らし出した強烈なカウンターパンチだと思う。福祉、医療、少子高齢化、社会制度、資本主義、現代社会が抱えている問題を、障害児の暮らしを通して見事に私たちの目の前に並べてみせた。

だれかが決めた普通じゃなくて  
その人の普通をその人らしく生きられたらいい  
これは地域で、たくさんの人に支えられて、支え、いのちを尽くして生き合う人たちの記録



生きて、生きて、生きて、  
普通に生きて

第25回  
あいち国際女性映画祭2020  
招待作品

# 普通に死ぬ

～いのちの自立～

ドキュメンタリー映画『普通に生きる』続編



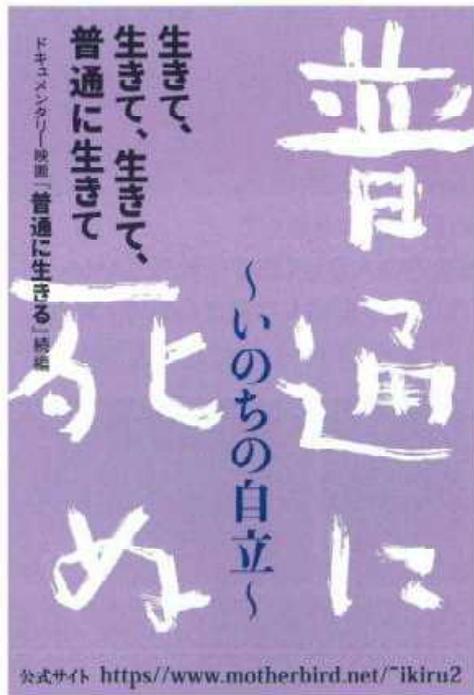
その人らしく生きてその人らしく死ぬ。この映画はガチガチに固まった既成概念や正論に縛られ、身動きしづらくなっている私たちが、新しい考え方を提示してくれる希望の作品だった。

©2020/長編ドキュメンタリー映画/  
HD/カラー/119分  
製作・motherbird・Cinema Sound Works  
著作・配給: motherbird  
録音: 中山隆彦  
音楽: 木・Kodama- 雪  
ナレーター: 余貴美子  
プロデューサー: 梨木かおり、貞末麻哉子  
監督・撮影・構成・編集: 貞末麻哉子



年齢を重ねてゆく重い障がいがある人とその家族……。在宅生活の中心的ケアラーが病に倒れると、残された医療的ケアの必要な人が、生まれ育った「地域で生きる」ことはなぜこれほどまでに困難なのか。前作「普通に生きる」から十年。家族と支援者の葛藤や気付き、「一緒に生き合う」取り組みを追い、厳しい現実から希望を見出すドキュメンタリー。





## イントロダクション

前作『普通に生きる～自立をめざして～』では、「どんなに重い障害を持っていても、本人もその家族も普通に生きる」という理念のもと、重症心身障害児・者と呼ばれる人たちの家族で立ち上げた社会福祉法人が、静岡県富士市と富士宮市にふたつの通所施設（生活介護事業所）〈でら〜と〉と〈らぼ〜と〉を開所させる五年間を追いました。

法制度の改革の波に採られつつも「福祉の受け手から担い手となる」発想で行政に働きかけて、理事である親たちは、自分たちのニーズに合った制度やサービスをつくりあげてゆきました。

続編となる本作『普通に死ぬ〜いのちの自立〜』は、その後、グループホームの開所や、設立十年を迎えて次第に変わりゆく運営方針や、3つ目の事業所建設という流れの中で、年齢を重ねてゆく本人とその家族を八年にわた

って撮影しました。その途中、「医療的ケア」を必要とする人の、在宅生活の中心的ケアラーであった母親が病に倒れます。残された子の母亡き後の地域生活…そこには厳しい現実がありました。

なぜ、医療的ケアが必要だと、「地域で生きる」ことが難しいのか。なぜこの人たちの生活や人生を社会が障害することになってしまうのか…。

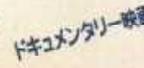
映画は厳しい現実を見据えつつ、後半、家族と支援者、医療者の葛藤や気付きを物語の軸に、兵庫東へと、希望を探して旅に出ます。

そこには、伊丹市で〈しゃあ〜と〉を率いる李国本修慈さんと、西宮市で〈青葉園〉を率いる清水明彦さんらの重ねてきた地道な活動がありました。軽快でしなやかで、しかしとても健やかに人生を賭けて、真正面から繰り広げられている「一緒に生き合う」取り組みがありました。



この映画は障害児とその家族を描いたドキュメンタリーではあるが、そこから外れてくるものはリアルな私たちの生活である。臨時に毎日の生きる人々の営みを、長い時間をかけて信頼関係を築きあげて創られた「普通に死ぬ〜」そこに障害をも普通者でない障害者がその人の人生を奪って生きて死ぬことのできる社会は、さうして全ての人の人生も壊かせる社会だ。

「あいち国際女性映画祭2020」招待上映作品  
 ■この著作の配給・ご購入等に関するお問合せは ■ マザーバード ■ motherbird   
 ■TEL & FAX : 03-6913-5591 / e-mail : office@motherbird.net ■ <https://www.motherbird.net>

社会福祉法人つどいの家 主催  「普通に死ぬ〜いのちの自立〜」上映会  
 社会福祉法人つどいの家後援会

2022年 **10月26日(水)**  
**宮城野区文化センター**  
**パトナシアター**  
 仙台市宮城野区五輪2丁目12-70

第1部 13:00～開映 ※開場は各回15分前  
 第2部 15:30～開映 ※第1部は上映のみ。  
 第3部 18:30～開映 第2部・第3部は、奥木麻哉子監督の  
 アフタートークがあります。

■チケット 前売り券：1,000円・当日券：1,200円  
 ■申し込み ネット予約：<https://forms.gle/oiRs1j9uZDZIJJUBA> (Googleフォーム)  
 電話予約：社会福祉法人つどいの家 後援会事務局 (仙台つどいの家の) 022-293-3751  
 ※法人の各施設でもチケット販売しております。

電車でお越しの方  
 JR 仙石線で  
 陸前駅/町駅 徒歩1分  
 バスでお越しの方  
 仙台市営/宮城交通で  
 「宮城野区役所前」  
 バス下車 徒歩3分

社会福祉法人つどいの家は「どんなに重いしょうがいのある人も、地域社会で居られることなく、いきいきと自立した地域生活ができるよう、自己実現の場を保障し支援すること」を基本理念として、社会福祉事業を実施しております。  
 後援：仙台市/仙台市教育委員会/宮城県知的障害者福祉協会/仙台市知的障害者関係団体連絡協議会/  
       
 朝日新聞社仙台総局/毎日新聞仙台支局

※感染拡大防止について、風邪症状や発熱等の症状がある方は参加をお控えください。会場内ではマスク着用、手指消毒等の予防対策のご協力をお願い致します。\*感染拡大の状況により変更・中止する場合がございます。予めご了承ください